

■■メールマガジン「静岡県防災」第28号■■

未来へつなぐ3.11（その2）

前号に続き、国（内閣府防災）の「一日前プロジェクト」から東日本大震災の経験談をもう一つご紹介します。

『 「親のしつけに感謝～我が家の防災教育はとてもシンプル～」 （宮古市 60代 女性元校長）

私たち6人姉弟は、地震が起きるといつも、「地震だ、逃げろ！それー」って、ランドセルを背負って近くの山に逃げました。

夜は公民館に逃げました。真っ暗でも着られるように服をたたんで順に枕元に置いて寝ること、すぐに外へ出られるように玄関の靴を揃えておくことが我が家の決まりでした。

東日本大震災の日も、迷わず逃げることを選びました。

地震が起きたのは5時間目の授業中。

校舎がメキメキと揺れる中、生徒を集め、一枚ジャケットを羽おらせ、中学生には小学生を手伝わせて避難しました。

私の両親は昭和三陸津波で家族を失っています。

それだけに、子どもたちに津波の恐ろしさを徹底して教えてくれたのだと思います。

とてもシンプルな分かりやすい防災教育でした。 』

○「揺れを感じたら直ちに避難！」

3月7日に公表した、令和4年度南海トラフ地震に関する県民意識調査結果では、津波に対して「揺れを感じたら直ちに避難する」と回答した方は、42.5%と昨年度の調査から約10%減少しました。

津波対策の基本は即時避難。津波から命を守るため、揺れを感じたら すぐに海から離れ、高いところへ避難しましょう。

「一日前プロジェクト」防災情報のページ

<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/ichinitimae/>